

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 群馬県藤岡市立美九里西小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒375-0037
群馬県藤岡市三本木769番地

E-mail : masterr@mikurinishi-es.gsn.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 43 名 女子 58 名 合計 101 名
 児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。



世界遺産候補 富岡製糸場と絹産業遺産群 「高山社」

- 1 活動名 ふるさと「みくり」再発見！ ～「高山社学」の推進を通して～
- 2 学校経営（教育構想）及び教育課程上の位置付け
（教科・領域）
 - (1) 学校経営（教育構想）上の位置付け
 - ・美九里西小の経営構想・教育推進計画を参照
（別添：美九里西小の教育構想【資料1】・教育推進計画【資料2】）
 - ・「高山社学」（ESD）推進構想及び推進計画を参照
（別添：「高山社学」（ESD）推進構想【資料3】・第3～6学年推進計画【資料4】）
 - (2) 教育課程上の位置付け
 - ・第3～5学年総合的な学習の時間
 - ・第1～6学年の国語・社会・理科・生活・図画工作・道徳
- 3 活動のねらい
 - (1) 美九里西小校区の自然や生活について、「高山社学」（ESD）推進構想に基づき、総合的な学習の時間を核に、関係教科との関連を図り、地域の人や物とかかわりながら調べ、まとめ、発信する活動を通して「みくり」のよさを再発見させ、ふるさとを大切にする心を育てる。
 - (2) 絹産業遺産群の一部である「高山社」を核とした学習を通して、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を養う。

4 活動の概要

- (1) 本校区は、藤岡市の南東部に位置し、平坦地と標高300mの山地との出会いにあり、豊かな自然環境に恵まれている。校区内に、養蚕教育機関である「高山社」があったことから、明治時代より養蚕が盛んに行われてきた。この「高山社」が、平成19年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産国内候補に選定され、平成24年8月、日本政府からユネスコへ推薦書（暫定版）の提出を受け、平成25年9月にはICOMOS（国際記念物遺跡会議）の現地調査が実施された。このような文化遺産を積極的に活用して学習を進めることにより、地域に誇りや愛着をもち、後世に語り継ぐ児童を育てている。
- (2) 本校は、平成24年度、本校はユネスコ・スクール登録され、1年間、ユネスコ・スクールとして活動してきた。今年度は、「高山社学」（ESD）を学校経営方針に位置付けたり、昨年度の成果と課題（第4学年に集中していた活動を他学年に移行し、6か年を通じた適正な教育活動とすること）を踏まえ、推進構想・推進計画を策定したりして、以下の活動を行った。
 - ① 「高山社学」（ESD）を全教育活動に位置付け、児童の発達段階に応じて、第1～6学年までの6か年を通して、総合的な学習の時間を核に関係教科との関連を図り、活動できるようにし、実践目標の具現化を図っている。
 - ② 第3～5学年の総合的な学習の時間では、地域の地理的特徴、歴史・伝統、生活の様子等に目を向けた学習を行い、ふるさとのよさを再発見し、ふるさとを大切にしようとする心を育てている。

第4学年では、第3学年の地域学習を基に、地域の自然やくらしの調べ学習における気付きを養蚕につなげ、学校で蚕を飼育して繭を作ったり、「高山社」を訪問して養蚕方法や養蚕に取り組んだ先人の工夫や苦労を学んだりしている。

第5学年では、「高山社」と関連する明治期の日本の近代化を支えた絹産業に係る富岡製糸場の見学を通して、「高山社」の歴史的価値を理解し、郷土を誇りに思い、郷土を愛する態度を育てている。
 - ③ 第6学年の図画工作では、「高山社」を題材に絵を描いたり、卒業式で飾るコサージュを、4年生から贈られた繭でつくったり、社会では、「富岡製糸場と高山社」の歴史学習を行ったりしている。
 - ④ 学校で蚕を飼育する際に地域の養蚕農家の方の指導を受けたり、「高山社」訪問の際に市教委文化財保護課の解説員から説明を聞いたり、繭を使ったコサージュづくりでは更生保護女性会の方に講師を依頼したりするなど、様々な人との交流の中で学習を進めている。
 - ⑤ ユネスコ・スクールの「持続可能な発展のための教育（ESD）」については、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けさせるため、各教科等の学習活動に問題解決的な学習を積極的に取り入れている。
 - ⑥ 「高山社学」の推進にあたっては、ESDの視点に立ち、「3つのつながり（①教材のつながり、②人のつながり、③能力・態度のつながり）」を踏まえた学習指導を行っている。

5 年間の活動計画

- 月活動内容等

(全学年)

4月～3月 関係教科：「高山社学」(ESD)推進構想、推進計画に基づいた活動

(第3学年 総合的な学習の時間)

4月～7月 美九里地区の自然や人々の暮らしにかかわる課題設定

9月～12月 追究活動

1月～3月 美九里西小カルタづくりを通してのまとめ

(第4学年 総合的な学習の時間)

6月 5年生からの「蚕の引き渡し式」、蚕の飼育(～第5学年6月まで)

9月～12月 高山社にかかわる課題設定、追究
養蚕農家・高山社跡地・日本絹の里の訪問・見学、まとめ

1月～3月 まとめ、学習成果を「学習発表会」にて発表

(第5学年 総合的な学習の時間)

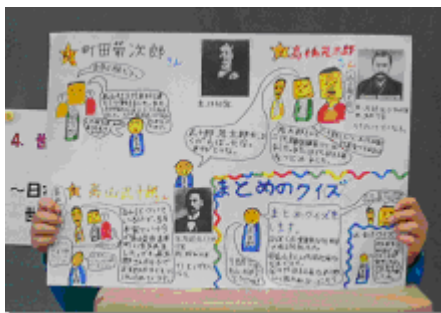
4月～6月 4年生への「蚕の引き渡し式」まで蚕を飼育

6月 繭人形づくり、4年生への「蚕の引き渡し式」

1月～3月 世界遺産にかかわる課題設定、追究
富岡製糸場の訪問・見学(平成25年度は、昨年度見学しているため実施しない)、まとめ

6 児童生徒の取組の様子

(1) 課題解決のための追究活動



中間まとめ

自分たちの住む地域のよさを、暮らしや自然環境に視点を当てて出し合い、グループごとに追究したい課題を練り上げ設定する。

グループごとに、追究計画の作成、情報の収集、整理・分析、まとめを行い、わかったことなどを交流する。そして、追究の過程で抱いた新たな疑問を課題として追究を深める。

(2) 現地見学学習

① 校区内にある養蚕農家を訪問し、養蚕農家の歴史や工夫、蚕の育て方などを学び、課題解決に役立っている。

② 高山社跡地を訪問し、創設者である高山長五郎や高山社の業績について学んだり、昔の養蚕農家の工夫などについて学習している。

③ 富岡製糸場を訪問し、製糸技術の革新について学



高山社見学

ぶとともに、生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中に広め、その生活や文化をさらに豊かなものに変えたことや、その際に高山社が果たした役割についても学び、美九里と世界のつながりを実感させて、地域に対する誇りや愛着を一層高める。

(3) 養蚕体験

4年教室に蚕の飼育スペースを設け、年間を通して蚕を飼育している。蚕が繭になり、さなぎが羽化した蚕蛾が産んだ卵から生まれた“けご（蚕の子）”を育てるなど、地域の養蚕農家の方の指導を受けながら教室で実際に蚕を育てている。特に、秋に育てた蚕からとれた繭を、6年生が卒業式で胸につける「繭玉コサージュ」づくりの材料として、6年生に贈っている。

また、4年生は5年生になっても6月に行われる4年生への「蚕の引き渡し式」まで、継続して大事に蚕を育て、「引き渡し式」では、4年生からの質問に答えたり、自分たちで作った繭人形を贈ったりしている。



蚕の引き渡し式

7 児童生徒の変容

- 地域の地理的特徴、歴史・伝統、生活の様子等に目を向けた学習を行い、地域に対する関心が高まり、ふるさとを大切にしようとする心が育ってきた。
- 地域の生きた題材を扱い、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現をスパイラルに継続する中で、自ら課題を見付け、自ら考えて判断し、よりよく問題を解決する資質や能力が育ってきた。
- 地域の人とのつながりを重視した学習活動を行うことにより、地域の温かさ、人とコミュニケーションすることの大切さなどに気付き、ふるさとを愛する心が育ってきた。

8 成果と課題

- 高山社及び富岡製糸場だけでなく、「富岡製糸場と絹産業遺産群（高山社・田島弥平旧宅・荒船風穴）」全体に視点を当て、第3学年から第6学年までの総合的な学習の時間を系統的につないだり、他教科等との関連を図ったりしながら、総合単元学習構想の構築等、「高山社学」と各教科等のねらいを明らかにするなど教育課程への位置付けについて見直し・改善を図るとともに、ねらいにそった教材開発に努め、本校（地域）の特色を一層生かした授業づくりに努める。
- 地域に密着した教育活動を一層充実させ、地域の文化遺産や地域のよさ等を後世に語り継ぐ児童を育成するとともに、児童が本校で学んだことを生かして、これからの実生活・実社会をたくましく生き抜いていけるよう、持続可能な発展のための教育（ESD）の視点を踏まえ教育課程の工夫・改善に努めたい。